

令和5年度 教育部 施策展開方針 報告書

1. まちづくり政策(教育部関係分)

政策 06 子 育 て ・ 教 育	政策展開の方向性						
	子育て環境を充実させることにより、安心して子どもを産み育てられ、就業と子育ての両立もできるまちをつくれます。教育では、子どもたちが多様で変化の激しい社会を生き抜いていく力を養成することに主眼をおき、個性を尊重しつつ確かな学力の定着に努めます。安全で安心な教育環境の下で地域社会全体が連携し、次代を担う心身ともに健康な子どもたちを育てます。						
	令和5年度 of 取組状況報告						
	06-02 子どもの教育の充実						
	・令和5年度から全小中学校に小中一貫教育を導入し、各中学校区において、学習規律や生活規律を揃えた一貫した指導や系統的な指導、中学校登校や乗り入れ授業など相乗的・補完的な指導に精力的に取り組むことで、児童生徒の自己肯定感の高揚や「中一ギャップ」の解消に努めました。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、引き続き保健衛生用品の確保や換気に必要な備品等の整備を行うなど、感染症の拡大防止を徹底し、教育活動の継続に努めました。 ・国が掲げる「GIGAスクール構想」に基づき整備したICT機器の活用などにより、系統的な情報活用能力の育成と個別最適で協働的な学びの充実を図っていくとともに、教職員の端末を仮想化することにより、業務の効率化を図り、児童生徒と向き合う時間の確保に取り組みしました。 ・地域とともにある学校づくりに向け、学校のニーズに基づき地域ボランティアや学生ボランティアを多数派遣したほか、学校・家庭・地域が相互に連携して子どもを育てる持続可能な仕組みづくりのため、えべつ型コミュニティ・スクール事業を進め、学校活動への参画促進に取り組みしました。 ・児童生徒が授業の内容を理解し、確かな学力を身に付けられるよう、全小中学校に学習サポート教員を派遣し、チーム・ティーチングや放課後の補充的学習等に取り組むとともに、外国語指導助手を派遣することにより、英語に慣れ親しみ、異文化を理解・尊重する態度やコミュニケーション能力を伸ばす教育に取り組ましました。 ・市内大学と連携した小学校への体力向上プログラム出前授業や、正しい走り方を身に付けるための「走り方教室」を継続して実施し、児童生徒の体力向上に繋がるよう取り組みました。 ・中学校の部活動について、学識経験者等による検討委員会での議論に加え、児童生徒・保護者等へのアンケート調査や関係者によるワークショップを実施し、当市に適した部活動のあり方について検討しました。 ・学校における読書活動の充実を図るため、学校図書館の蔵書率向上に努めるとともに、情報図書館と連携し、司書による学校巡回配置を増やしたほか、学校要望に応じた随時支援により環境整備や朝読書などに取り組みました。 ・特別な支援や配慮を必要とする児童生徒が適切な教育を受けられるよう、特別支援教育支援員の配置の拡充や施設整備、専門家チームの巡回相談による助言を行ったほか、特別支援教育に関する教員及び支援員の資質向上を図る研修を実施しました。 ・医療的ケアを必要とする児童を受け入れ、安心安全な学校生活を送るための支援を行いました。 ・不安や悩みを抱える児童生徒を支援するため、スクールソーシャルワーカーが、学校・福祉・医療などと連携して課題の解決に取り組みしました。 ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、いじめを許さない意識の醸成と相談窓口の周知に努めたほか、市独自のいじめアンケート調査を実施しました。 ・不登校または不登校傾向にある児童生徒を支援するため、適応指導教室「すぽっとケア」の開催日数を拡充したほか、各学校の登校支援室へのボランティア派遣、自宅でオンライン学習等を行った場合の出席扱いの基準統一など、教育機会及び居場所の確保など支援の充実を図りました。 ・青少年の健全育成に取り組む地域の住民団体やボランティア団体をはじめとした育成団体の活動を支援するとともに、小中学生を対象に育成団体との協働により、地域の自然、文化、産業等の資源を生かした、江別の魅力「食」と「自然」を満喫できる体験型学習を実施したほか、様々な体験活動の機会を提供しました。 ・物価高騰により学校給食の原材料費が上昇している中、原材料を購入している江別市学校給食会に対して補助金を交付することにより、保護者負担を増やすことなく、栄養バランスや量を保った給食を提供しました。 ・学校施設・設備の維持保全を図り、安全安心な教育環境を確保するため、「江別市学校施設長寿命化計画」に基づき、校舎改修や設備更新等を進める中、暑さ対策も推進するため、全小中学校の保健室へのエアコン整備に着手したほか、各学校が気軽に涼をとることができるスペースを整備できるよう、移動式冷房機器の設置を進めました。						
政策の成果指標		単位	(初期値)	R3年度	R4年度	R5年度	目標
子育て環境が充実していると思う保護者の割合		%	44.6	50.9	47.9	52.5	↗
教育施策に満足している保護者の割合		%	78.0	83.8	82.8	90.0	↗
「生きる力」が身についた児童・生徒の割合		%	81.7	80.9	81.9	83.7	↗
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況							
「学校教育基本計画」 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合		%	76.2	80.1	78.6	82.2	↗

政策 07 生涯学習・文化	政策展開の方向性						
	市民が生涯にわたって、学習・文化活動・スポーツを気軽に行える場を提供し、市民が心身ともに健やかで充実した生活を営めるようにします。また、長い歴史を持つれんが産業や文化・歴史遺産を通じて、市民のふるさと意識の醸成を図ります。						
	令和5年度 of 取組状況報告						
	07-01 生涯学習の充実						
	・公民館や情報図書館をはじめとする社会教育施設について、生涯学習に取り組む市民や活動団体等に、安全で快適な学習環境を提供するため、「江別市公民館等長寿命化計画」、「江別市情報図書館長寿命化計画」を踏まえた適切な維持修繕等を行いました。 ・生涯学習活動に取り組む社会教育関係団体が自立し、主体的に活動を展開していけるよう、各活動団体が行う事業への補助や、公民館施設等使用料の減免など、活動団体の安定的な運営への支援を行いました。 ・市民の多様な学習要求に応えるため、市内関係機関・団体と連携して「えべつ市民カレッジ」を実施し、総合的に学ぶ機会を提供しました。また、市民が地域課題の解決に向けた問題意識と知識を獲得し、まちづくりに主体的に参画するための学習の場として、市内四大学との共催による連携講座「ふるさと江別塾」を、コロナ禍においてはオンライン配信で実施していましたが、3年振りに対面形式で開講しました。						
	07-02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造						
	・質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や幅広い活動の場を提供するため、音楽・演劇公演の開催や文化活動団体の事業に対し支援を行いました。 ・「北海道林木育種場旧庁舎」の歴史的価値を広く周知することを目的として、市民を対象とした建物歴史セミナーや、市内大学生による施設の利活用促進をテーマとしたセミナーを実施しました。 ・江別の酪農の歴史と産業を発信する施設である「旧町村農場」について、令和4年度に策定した「旧町村農場保存活用整備方針」に基づき、建物・設備及び展示施設の大規模改修工事を行いました。 ・郷土資料館では、ふるさとへの理解を深める機会を提供するため、埋蔵文化財の企画展や各種歴史講座、小学校の総合学習への支援等、郷土史学習に関する事業を実施しました。 ・セラミックアートセンターでは、陶芸文化への興味関心、学習意欲を高める機会を提供するため、収蔵品を活用した企画展示や工房利用者の成果発表展などを開催するとともに、各種陶芸教室などを開講しました。 ・セラミックアートセンターの快適な利活用を促進するため、コンサートなど各種イベント会場となるエントランスホールの高所照明のLED化を実施しました。						
	07-03 市民スポーツ活動の充実						
	・体育施設管理団体と連携し、体育館をはじめとするスポーツ施設の適切な施設運営に努めたほか、「江別市スポーツ施設長寿命化計画」に基づき、市民体育館において、給水ポンプの取換や柔剣道室の床改修を実施するなど、各施設の適切な維持・改修整備を行いました。 ・利用者アンケートなどを通じて市民ニーズを正確に把握し、各種スポーツ教室の指導方法の工夫に努めたほか、あけぼのパークゴルフ場のコースを増設するなど、利用者の利便性向上を図りました。 ・幅広い年齢層に対応した活動機会の提供、及び地域や関係団体との連携によるスポーツ活動団体活性化のため、活動団体への補助や軽スポーツ普及への支援を行いました。 ・トップアスリートとの交流により、スポーツへの関心を高め、市民スポーツ活動の振興を図るため、競泳日本代表チームの合宿の受入れを行ったほか、市民の「生涯スポーツ」の実現に寄与することを目的に、社会人スポーツチームとの連携協定の締結を行いました。また、障がい者スポーツの支援として、北海道特別支援学校フットサル大会の開催・運営協力を行いました。 ・令和5年度全国高校総体北海道大会において、当市で開催されたホッケー競技及び競泳競技で、競技役員や運営委員、補助生徒及び関係機関と協力し合い、円滑な大会運営を行いました。また、会場に入場できなかった方のために、近接の公共施設でパブリックビューイングを実施し、観覧の場の提供に努めました。						
	政策の成果指標	単位	(初期値)	R3年度	R4年度	R5年度	目標
	生涯学習を通じて心の豊かさを実感している市民割合	%	33.2	26.0	26.7	26.1	↗
	文化・芸術活動に参加している市民割合	%	-	20.9	26.6	14.9	↗
	週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合	%	40.2	43.0	44.2	42.7	↗
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況							
「社会教育総合計画」 生涯学習の機会が充実していると思う市民割合		%	72.0	67.1	62.2	68.3	↗
「社会教育総合計画」 文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合		%	45.1	40.6	35.3	34.0	↗
「スポーツ推進計画」 スポーツ機会が充足していると思う市民割合		%	76.5	69.9	63.8	70.7	↗

政策 08	政策展開の方向性					
協働	江別市自治基本条例の理念に基づき、市政への市民参加を進めるとともに、市民、自治会、市民活動団体、企業、大学などの各種団体と連携して魅力ある協働のまちづくりを推進します。また、グローバルな視点に立ち、人材・団体の育成を進め、在住外国人とも協力し合うなど、国際交流を推進します。					
	令和5年度の取組状況報告					
	08-01 協働のまちづくりの推進					
	- 異なる文化・歴史・産業等を学び、自分の住む地域を見つめ直し、江別への理解を深め郷土愛を育むことを目的とした友好都市高知県土佐市との小中学生相互交流事業を、新型コロナウイルス感染症の影響による中止から、4年振りに再開しました。 - 友好都市提携45周年記念事業では、両市の市長、議長等による相互訪問により、記念式典や祝賀会の開催、記念イベントへの参加を通じて、両市の友好を一層深めることができました。					
	08-02 国際交流の推進					
	- 子どもたちの国際理解を深め、国際交流の意識向上を目的とした姉妹都市米国グresham市との中高生相互交流事業を、新型コロナウイルス感染症の影響による中止から、4年振りに再開しました。 - 地域の国際化や国際交流の推進に大きな役割を担っている国際センターが主催する様々な交流イベントでは、留学生や技能実習生をはじめとした多くの在住外国人の参加により、市民が多文化に触れることができ、国際理解が深まる機会となりました。 - 姉妹都市米国グresham市から市長や議長をはじめ10名の訪問団が来江し、歓迎交流会の開催、市内経済団体との会談や市内企業視察、国際交流イベントへの参加を通して、両市の友好を一層深めることができました。					
	政策の成果指標	単位	(初期値)	R3年度	R4年度	R5年度
	お互いの文化や価値観を理解し、外国人と交流できる市民割合	%	42.7	55.1	60.7	55.6
	教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況					
	「国際交流情報提供事業」 国際交流員が携わった地域国際化のための講座・イベント等の参加者数	人	895	238	846	1,225

2. えべつ未来戦略(教育部関係分)

戦 略	■戦略プロジェクト 「関連事業」(担当課)
戦 略 1 にぎわいと活力を創出するまちづくり	
戦 略 2 安心して子どもを産み育てることができるまちづくり	②教育内容の充実 「小中一貫教育推進事業」(学校教育課) 「小中学校学習サポート事業」(学校教育課) 「GIGAスクール構想推進事業」(学校教育課) 「小中学校外国語教育支援事業」(学校教育課) 「スクールソーシャルワーカー事業」(教育支援課) 「医療的ケア児支援事業」(教育支援課)
戦 略 3 子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり	

3. 教育部の資源

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歳出決算額 (千円)	一般会計 (A)	2,280,931	3,911,468	2,781,412	3,192,950	3,444,527
	特別会計 (B)	0	0	0	0	0
	合計 (A+B)	2,280,931	3,911,468	2,781,412	3,192,950	3,444,527
正職員人件費 (千円)	人工 (a)	98.00	95.00	94.00	96.00	92.00
	平均単価 (b)	7,687	7,629	7,607	7,604	7,433
	人件費 (a×b)	753,326	724,755	715,058	729,984	683,836
総 額		3,034,257	4,636,223	3,496,470	3,922,934	4,128,363

